

秋田高専における図書館利用に関する調査

榎 国夫・幸野 稔・成田 文雄・小林 清

(昭和61年10月28日受理)

A Survey of Library Use at Akita National College of Technology

Kunio ENOKI, Minoru KONO, Fumio NARITA, Kiyoshi KOBAYASHI

This is the report of a survey of library use which was made, in July 1985, in the form of a questionnaire to the students of Akita National College of Technology. The survey was designed to be used as data for improving the management of our college library.

The questionnaire includes the students' behaviour towards reading in general, and towards the use of our library in terms of the reading room and the audio-visual facilities as well as the books and software stored there.

After an analysis of the survey, we present some measures we have taken to deal with the problems clarified by it, as well as their effects. Lastly, we give some suggestions and an outlook for the more effective use of our library.

1. 序

「高専教育における図書館とは、いかなる性格、いかなる機能を持つ図書館であるべきか。」何か、新しい構想、または長期的計画が提起された場合、常に繰り返されたテーマである。高等教育機関である高等専門学校の図書館は、小・中・高における学習図書館的性格とは明らかに異なるはずである。しかし、中学校卒業生を受け入れる高等専門学校では、この時期における自主的学習態度の涵養が何よりも重要視されるべきであり、この学習図書館的性格を否定することは出来ない。さらに、教養図書館的要素をも併せ持つ必要がある。また、工業高等専門学校としての教育内容からみると、工学部図書館的要素をも持たねばならないが、学生の年令構成から考え、保存式図書館よりも開架式図書館であらねばならない。

あまりにも多面的な性格を持つ高専図書館であるが、未だに、設置基準も制定されていないというのも不思議な話ではある。専科大学構想が進行しつつある現在、その中に図書館設置基準も組込まれることになるだろうが、大いに期待される場所である。しかし、当面図書館の未来像は、各高専の独自性に委ねられた形であるが、教育と研究活動の中心的な場としての図書館をいかに創り上げていくか、我々

に課された大きな課題である。また、高専図書館は、現在の高度情報化社会に対応すべく、単に図書資料だけでなく、視聴覚機器、資料の整備、拡充に努め、教育効果を高めるため、十分機能しなければならない。

2. 調査の目的

本校図書館も設立以来十余年を経過し、その間、より良い図書館運営の為の改善が種々加えられて今日に至っている。しかし、幾つかの課題が累積しつつあるのも、また事実である。図書館の組織機構が館長、館長補制になったのを機会に、本校図書館が学生、教官に常時利用され、高専教育の中核を占めるべくその未来像を模索していきたい。その一環として、学生の読書および図書館に関する意識および実態の調査をアンケート形式で行なった。

3. 調査時の現状

図書館は学則に定められた休業日を除き、平日は8時40分から17時まで、土曜日は8時40分から13時まで（長期休業期間中は閉館）となっている。貸出しは1人2冊まで、1週間の期限で行なわれており、60年度の学年別貸出し冊数は、表3のとおりである。

視聴覚資料として、レコード509枚、ビデオテープ87巻、スライド30標題、録音テープ491巻、映画フィルム16ミリ7巻、8ミリ6巻がある。

表 3 60年度別貸出し冊数

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	計
冊 数	930	1,683	1,811	1,917	1,403	7,744

4. 調査の方法

1) 実施対象：全学生

項目 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	計
在 籍 数	164	165	172	144	140	785
回 答 数	162	158	159	139	132	750
回収率(%)	98.8	95.8	92.4	96.5	94.3	95.5

2) 実施時期：昭和60年7月

3) 実施方法：教室において調査用紙に無記名で記入させる。

4) 回答指示：特に指示ある場合を除き、最近1年間（1年生は入学後現在まで）の事実について答えること。項目を選ぶ場合は、特に指示ある場合を除き、該当するもの1つを選び、○印をつけること。選んだ項目に（ ）がある場合は、その中に具体的な内容を書き入れること。なお〔 〕がある場合は、その中で指示された人だけが答えること。

5) 集計等

ア) 集計の数値は、特に指示がない限り、各項目の解答数に対する百分率を表わす。

イ) 無答数は、全解答数と各項目の解答数の差を示す。

ウ) 学科毎の集計は、特に顕著なものを除いては割愛した。学科名は、M（機械）、E（電気）、C（工化）、B（土木）とした。

エ) 5に現われる相関係数 r は、各クラスを標本として算出した。

5. 集計結果とその考察

1. 一般に読書は好きですか。

- (1)非常に好き (2)好き (3)どちらともいえない
(4)嫌い (5)非常に嫌い

読書が好きであると答えた学生は(1)、(2)を合わせて、3学年の65.4%を最高に、最低でも2学年の50.9%で、全学年では57.5%である。一方、(4)、(5)を合

表 5-1

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	12.4	10.7	11.3	10.8	9.8	11.1
(2)	46.0	40.2	54.1	43.2	48.5	46.4
(3)	31.1	35.2	25.8	38.8	34.1	32.8
(4)	6.2	10.1	8.2	5.0	6.1	7.2
(5)	4.3	3.8	0.6	2.2	1.5	2.5
回答数	161	159	159	139	132	750
無答数	0	0	0	0	0	0

わせて、読書の嫌いな学生は2学年の13.9%を最高に、最低は4学年の7.2%で、全学年は9.7%である。一般に読書好きの学生が全体の約6割を占め、読書嫌いの約1割を大きく上回っている。しかし、(4)、(5)と答えた学生に、1学年と2学年が多いことが、本校における活字離れ現象の現われかと、若干、気懸りである。(4)、(5)のグループと(3)と答えた約3分の1の学生をいかに(1)、(2)に持っていかか今後の課題となろう。

2. あなたが最近1カ月以内に読んだ図書はどんなものですか。(1)~(4)のそれぞれについて冊数を書き入れて下さい。

- (1)単行本{(4)を除く} (2)月刊雑誌 (3)週刊雑誌
(4)アニメ、漫画 (5)その他

表 5-2 全学年の平均値

項目 \ 冊数	2冊未満	2~5冊	6~10冊	11~20冊	20冊以上
(1)	63.4	28.8	6.2	1.2	0.4
(2)	46.9	47.3	4.5	1.1	0.2
(3)	39.7	41.6	12.9	4.9	0.9
(4)	36.9	32.4	16.3	8.4	6.0
(5)	92.6	5.8	1.4	0.1	0.1

一般的に、2冊未満と解答したものの中には、読書をしない層が相当数含まれており、実際に読書をする層は2~5冊以上のものと思われ、(1)は余り読まれておらず、(2)(3)(4)の順に読者数が増加していくのが判り、現代の若者の読書傾向がそのまま、本校にも当てはまる事が明らかである。

3. 一日平均の読書時間（勉強時間は除く）はどのくらいですか。

- (1)3時間以上 (2)2時間~3時間未満
(3)1時間~2時間未満 (4)1時間未満

(1)と答えたものは全学で16名、2.2%であり、1学年は0である。(2)は全学年で40名、5.6%であり、学年毎に、ほぼ一定した値をとる。(3)は全学年で147

秋田高専における図書館利用に関する調査

表 5-3

項目	学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)		0.0	3.2	2.7	3.5	1.5	2.2
(2)		5.6	3.2	7.5	5.6	5.3	5.6
(3)		23.8	20.7	24.5	26.8	17.4	20.5
(4)		70.6	72.9	65.3	64.1	75.8	71.7
回答数		160	155	147	139	132	733
無答数		2	3	12	0	0	17

名、20.5%であり、(4)は全学年で530名、71.7%である。前項2における読書傾向と読書時間との関係が上の表5-3からも読み取れる。この(3)と(4)と昭和60年度のクラス別図書貸出冊数との相関係数を求めると、それぞれ $r=0.6$ 、 $r=-0.1$ であり、これらから、(3)のグループは良く読書をするグループであり、(4)は殆んど読書をしないグループとみることができる。

4. 1カ月平均の本に使う金額はどのくらいですか。

- (1)3千円以上 (2)2千円～3千円未満
 (3)千円～2千円未満 (4)5百円～千円未満
 (5)百円～5百円未満 (6)百円未満

1カ月間の本代としては、5百円～2千円位が一般的のようで、全学生の62.2%を占めている。比較

表 5-5

順位	好きな作家	票数
1	赤川次郎	153
2	筒井康隆	46
3	星新一	44
4	片岡義男	27
5	夏目漱石	16
6	眉村卓	15
6	松本清張	15
8	横溝正史	14
9	平井和正	13
9	栗本薫	13

5. 予想された通り、赤川次郎が他を大きく離して第1位である。これは昨今のミステリーブームと、彼のユーモラスな作風がヤングの心を捕えたものといえる。続いて、筒井康隆、星新一が続いているが、SF物の中でも、彼等の軽妙さが受けたのではないか。夏目漱石は、時代の変化や世代を超越した偉大な作家であることが判かる。

昭和62年2月

表 5-4

項目	学年	1	2	3	4	5	平均
(1)		5.1	5.6	11.3	10.1	10.7	8.6
(2)		11.5	10.0	15.7	14.5	16.0	12.7
(3)		31.2	36.3	35.9	31.2	28.2	31.0
(4)		33.1	28.7	19.5	28.3	26.7	31.2
(5)		11.5	11.3	10.7	8.7	13.0	10.4
(6)		7.6	8.1	6.9	7.2	5.4	6.7
回答数		157	159	159	138	131	744
無答数		4	0	0	1	1	6

的高額な2千円以上は、1学年が16.6%、2学年が15.6%、3学年が27.0%、4学年が24.6%、5学年が26.7%であり、学年進行と共に多少金額が増えていくようである。

5. あなたの好きな作家を順位をつけて2名書いて下さい。

1位 2位

6. 好きな本の題名を2冊書いて下さい。

(1) (2)

7. 好きな漫画の題名を2冊書いて下さい。

(1) (2)

5. 6. 7. のベスト10を以下に記す。

表 5-6

順位	好きな書籍	票数
1	三毛猫ホームズ	26
2	坊ちゃん	9
3	七瀬ふたたび	8
4	塩狩峠	7
5	しろばんば	6
5	人間失格	6
7	幻魔大戦	4
7	探偵物語	4
7	汚れた英雄	4
7	麻雀放浪記	4

6. 表5-5の好きな作家の作品が並んでいる中で、太宰治の作品が入っているのが注目される。

7. 漫画週刊誌の連載物がズラリと並び、世代の差を痛感させられた。

8. あなたの持っている本の冊数はどのくらいですか。

- (1)100冊以上 (2)50冊～100冊未満
 (3)30冊～50冊未満 (4)10冊～30冊未満 (5)10冊未満

表 5-8

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	平均
(1)	15.3	17.3	29.8	21.3	23.0	21.3
(2)	20.0	25.6	27.1	30.9	25.4	25.7
(3)	18.7	17.3	16.6	13.2	16.7	16.5
(4)	31.3	25.6	22.5	28.7	22.2	26.2
(5)	14.7	14.2	4.0	5.9	12.7	10.3
回答数	150	156	151	136	126	719
無答数	11	3	8	3	6	31

(2)と(4)との2つのピークができていますが、(2)と答えたものは教科書等を含め、(4)と答えたものは、含めなかったと解釈し得る。設問に多少の不備があったことはいなめないが、一応、4学年までは蔵書数が学年進行と共に増加している。不思議なのは5学年で減少することで、この年度に限ったことであろうと推測できる。

9. 県立や市町村立の図書館で図書を借りたことがありますか。

- (1)ある (2)ない

表 5-9

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	50.0	47.2	49.4	48.2	56.2	50.0
(2)	50.0	52.8	50.6	51.8	43.9	50.0
回答数	162	158	159	139	132	750
無答数	0	0	0	0	0	0

学年に関係なく、半分の学生が本校以外の図書館を利用している。60年度貸出し冊数との相関係数を調べてみると、(1) $r = -0.10$ 、(2) $r = 0.16$ となる。したがって他の図書館の利用と本校の図書館の利用とは、ほとんど関係がないと思われる。

10. 最近1カ月以内に、授業・特活以外で本校の図書館に入館したことがありますか。

- (1)ある (2)ない

表 5-10

学年 \ 項目	1	2	3	4	5	全学年	M	E	C	B
(1)	87.5	72.5	80.5	86.3	87.8	82.4	78.0	95.6	84.9	75.7
(2)	12.5	27.5	19.5	13.7	12.2	17.6	22.0	4.4	15.1	24.3
回答数	162	158	159	139	132	750	182	192	191	185
無答数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2学年の入館率が低い。これはある特定のクラス(複数)の入館者数が少ないことが影響している。(1)と答えた者と60年度の貸出し冊数との相関係数は、 $r = 0.33$ となる。また(1)と答えた者と1の(1)+(2)との相関係数は、 $r = 0.60$ となる。

11. [10で(1)と答えた人に] 図書館内のどこに入りましたか。入った場所全部に○印をつけて下さい。

- (1)ロビー (2)自習室 (3)閲覧室 (4)視聴覚室
 (5)音楽鑑賞室 (6)ビデオ鑑賞室 (7)その他

表 5-11

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	50.0	48.3	57.8	55.0	43.5	51.1
(2)	21.4	25.0	19.5	31.7	33.0	25.8
(3)	83.6	78.5	80.5	87.5	88.7	83.7
(4)	10.7	11.2	3.1	1.7	5.2	6.5
(5)	20.0	25.0	23.4	23.3	12.2	20.8
(6)	21.4	20.7	19.5	30.0	6.1	19.7
(7)	0.7	1.7	3.1	0.8	0.9	1.5
回答数	140	116	128	120	115	619

60年度の貸出し冊数と上記のそれぞれの場所との相関係数は、(3) $r = 0.60$ 、(6) $r = 0.37$ 、(1) $r = 0.28$ となる。閲覧室との相関係数はそれぞれ(1) $r = 0.58$ 、(6) $r = 0.43$ となり相関があることがわかる。これらことから、図書館のどの場所でも利用度が増してくると、閲覧室の利用、貸出し冊数も増えてくると思われる。

12. 授業・特活以外で、閲覧室を利用することはどのくらいありますか。

- (1)週3回以上 (2)週1～2回 (3)月1～3回程度
 (4)月1回未満 (5)全くない

表 5-12

学年 \ 項目	1	2	3	4	5	全学年	M	E	C	B
(1)	8.6	4.5	10.7	10.8	9.3	8.7	8.2	12.0	13.7	0.5
(2)	27.2	18.2	27.7	39.6	31.8	28.5	19.8	44.2	31.1	18.9
(3)	29.6	27.9	33.3	30.2	41.1	32.2	36.8	27.1	31.7	33.0
(4)	14.8	18.2	14.5	10.2	8.5	13.5	13.2	8.3	12.5	20.0
(5)	19.8	31.2	13.8	10.2	9.3	17.1	22.0	8.4	11.0	27.6
回答数	162	153	159	139	129	742	182	192	183	185
無答数	0	5	0	0	3	8	0	0	8	0

全学年では、(3)が一番多いが、4学年にかぎっては(2)が最大である。特に目だつのは2学年の約3分

秋田高専における図書館利用に関する調査

の1が全く利用しないことである。これは2学年のある学級(複数)で半分近くが利用していないことが影響している。60年度の貸出し冊数との相関係数が一番大きかったのは(2)で $r=0.66$ となっている。(3)との相関係数は $r=-0.18$ となっている。(2)および(3)と1の(1)+(2)との相関係数は、それぞれ $r=0.41$ 、 $r=0.02$ となる。したがって読書に対する関心度は週1~2回程度の利用により深く結びついていることがわかる。

13. [12で(1)~(4)の答えをした人に] 閲覧室を何の目的で利用していますか。該当する項目3つ以内に○印をつけ、番号で順をつけて下さい。

- (1)学校と直結した学習のため
- (2)学校外の調査、資格取得などの学習のため
- (3)教養や趣味のため
- (4)その他

順位 1位 2位 3位

表5-13

項目	学年					全学年	M	E	C	B
	1	2	3	4	5					
(1)	31.7	45.8	48.2	48.9	44.9	43.8	43.6	47.7	48.2	34.2
(2)	16.8	12.9	11.9	10.6	16.6	13.7	12.0	10.6	12.1	21.4
(3)	44.3	36.8	35.7	38.4	37.8	38.7	40.9	37.4	36.5	40.4
(4)	7.2	4.5	4.2	2.1	0.7	3.8	3.5	4.3	3.2	4.0

(1位の数×3, 2位の数×2, 3位の数×1として算出した比率)

利用の目的で一番多いのは(1)で、二番目が(3)である。(2)の項目では、B科が他の学科にくらべて多いのが注目される。

14. [12で(5)と答えた人に] 閲覧室を利用しない理由は何ですか。該当する項目3つ以内に○印をつけ、番号で順位をつけて下さい。

- (1)読書や学習を好まない
- (2)多忙で行く時間がない
- (3)必要な本は自分で買うので間に合っている
- (4)友人、家族、公立図書館等から借りれば間に合う
- (5)閲覧室には自分の好みの図書が少ない
- (6)その他

順位 1位 2位 3位

(2)の多忙で行く時間がないが一番多いが、これは学生の日常生活から考えると、多分に言い訳と受けとられ、閲覧室の利用に消極的な姿勢が浮び上がる。

表5-14

項目	学年					全学年
	1	2	3	4	5	
(1)	14.9	14.4	19.7	19.7	18.3	16.3
(2)	34.4	33.3	23.8	24.6	35.0	31.2
(3)	15.6	26.9	20.5	24.6	21.7	22.4
(4)	9.7	8.3	13.9	8.2	8.3	9.7
(5)	19.5	15.9	13.9	21.3	16.7	16.9
(6)	5.9	1.2	8.2	1.6	0.0	3.5

(1位の数×3, 2位の数×2, 3位の数×1として算出した比率)

15. 本を館外に借り出すためには図書帯出証を閲覧室のカウンターで作ってもらわなければなりません。このことを知っていますか。

- (1)知っている
- (2)知らなかった

表5-15

項目	学年					全学年
	1	2	3	4	5	
(1)	90.7	89.9	89.9	97.8	97.7	92.9
(2)	9.3	10.1	10.1	2.2	2.3	7.1
回答数	162	157	158	139	130	746
無答数	0	1	1	0	2	4

知らなかったのは低学年が多いが、高学年でも数人いる。(2)と14の(2)との相関係数は $r=0.66$ となり、多忙で閲覧室に行く時間がないというよりも、図書館利用に無関心なことがうかがえる。

16. 図書帯出証を作っていますか。

- (1)作っている
- (2)作っていない

表5-16

項目	学年					全学年
	1	2	3	4	5	
(1)	35.8	50.3	52.9	67.6	61.8	52.9
(2)	64.2	49.7	47.1	32.4	38.2	47.1
回答数	162	158	157	139	131	747
無答数	0	0	2	0	1	3

学年進行とともに(1)の割合が増えている傾向がみられる。(1)と60年度の貸出し冊数との相関係数は $r=0.80$ で相関が強いことがわかる。

17. [16で(1)と答えた人に] どのくらい本を借り出していますか。

- (1)週4冊以上
- (2)週1~3冊
- (3)月2~3冊程度
- (4)月1冊以下
- (5)全く借り出さない

表 5-17

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	0.0	3.7	3.5	2.1	2.5	2.5
(2)	20.0	23.2	25.6	36.5	21.5	26.1
(3)	48.3	30.5	33.7	37.5	44.3	38.2
(4)	23.3	31.7	32.6	19.8	29.1	27.3
(5)	8.4	10.9	4.6	4.1	2.6	5.9
回答数	58	80	83	94	81	396

図書帯出証を作っている学生の67%は月2冊以上借り出している。

18. 閲覧室の開室日、開室時間についてどう思いますか。

- (1) 現行通りでよい (2) 開室時間を延長して欲しい (3) 長期休業中に開室日を設けて欲しい

表 5-18

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	67.1	51.2	45.8	38.5	33.1	41.6
(2)	23.4	34.1	33.7	36.4	35.9	32.6
(3)	9.5	14.7	20.5	25.1	31.0	19.8
回答数	158	170	166	143	145	782

学年進行とともに(2)、(3)の割合が増えており、図書館への依存度の強さを表わしているものと思われる。このことから(2)、(3)を至急検討する必要がある。60年度貸出し冊数と、(1)、(2)、(3)との相関係数はそれぞれ(1) $r = -0.30$, (2) $r = 0.23$, (3) $r = 0.57$ となり、多く本を利用するクラスほど(2)、(3)を望んでいることがわかる。

19. 授業・特活以外に音楽鑑賞室を利用することはどのくらいありますか。

- (1) 週3回以上 (2) 週1~2回
(3) 月1~3回程度 (4) 月1回未満
(5) 全くない

表 5-19

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	0.6	1.3	1.3	0.0	0.0	0.7
(2)	0.0	0.0	3.2	2.2	2.3	1.5
(3)	5.0	7.6	9.5	15.2	7.7	8.9
(4)	15.0	21.7	22.9	42.7	41.9	27.9
(5)	79.4	69.4	63.1	39.9	48.1	61.0
回答数	160	157	157	138	129	741
無答数	2	1	2	1	3	9

アンケート調査によると、4学年の利用率が目立って高い。この学年の月毎の利用状況を調べると、前年度(3学年当時)の1~2月に集中して利用者が多い。5学年では、4学年ほどではないが、低学年に比べると利用率は高くなっている。

20. [19で(1)~(4)の答えをした人に] 音楽鑑賞室ではどんなレコードを好んで聞きますか。該当する項目3つ以内に○印をつけ、番号で順位をつけて下さい。

- (1) クラシック (2) ジャズ・フュージョン
(3) ポップス (4) 歌謡曲 (5) ニューミュージック
(6) その他

表 5-20-1

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	6.9	5.0	4.2	4.3	5.7	5.0
(2)	8.4	4.6	10.0	8.6	7.1	7.8
(3)	31.8	30.0	34.1	32.5	38.4	33.6
(4)	18.0	19.3	9.3	19.1	12.8	15.7
(5)	27.0	27.5	28.3	30.1	26.2	28.1
(6)	7.9	13.6	14.1	5.4	9.8	9.8

(1位の数×3, 2位の数×2, 3位の数×1として算出した比率)

表 5-20-2 ジャンル別の順位

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	⑥	⑤	⑥	⑥	⑥	⑥
(2)	④	⑤	④	④	⑤	⑤
(3)	①	①	①	①	①	①
(4)	③	③	⑤	③	③	③
(5)	②	②	②	②	②	②
(6)	④	④	③	⑤	④	④

予想通り、(3)のポップス、(5)のニューミュージックの優位は動かず、(1)のクラシックは人気がない。(6)のその他はほとんどロック系である。

21. 授業・特活以外にビデオ鑑賞室を利用することはどのくらいありますか。

- (1) 週3回以上 (2) 週1~2回
(3) 月1~3回程度 (4) 月1回未満
(5) 全くない

項目19と同様、4学年の利用率が突出しており、かなり離れて5学年、3学年と続いている。月毎の利用状況を調べると、4学年の場合、前年度(3学年当時)の10月以降増え出し、60年6月に急増して

秋田高専における図書館利用に関する調査

表5-21

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.3
(2)	0.0	0.6	1.9	5.8	0.8	1.8
(3)	4.4	1.9	5.1	12.4	1.5	5.0
(4)	7.5	12.0	12.1	28.5	26.9	16.7
(5)	88.1	84.2	80.9	53.3	70.8	76.2
回答数	159	158	157	137	130	741
無答数	3	0	2	2	2	9

いる。3学年では、60年5～6月に突然増え出している。調査直前のため、アンケートの数字には顕在しなかったものと思われる。5学年の利用率は、いずれにしても意外に高くはない。4学年、3学年共に、急増期に利用しているソフトは、図書館所蔵のものより持ちこみがるかに多い。

22. [21で(1)～(4)の答えをした人に] ビデオテープは次のうちどちらを利用することが多いですか。

- (1) 図書館所蔵のもの (2) 外部からの持ち込み
(3) どちらともいえない

表5-22-1

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	45.0	42.9	28.1	12.7	13.9	24.0
(2)	20.0	32.1	59.4	69.8	47.2	52.0
(3)	35.0	25.0	12.5	17.5	38.9	24.0
回答数	20	28	32	63	36	179

表5-22-2 ビデオテープ利用状況
(59年7月～60年6月、ただし1学年は60年4月～60年6月)

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	100.0	70.6	44.9	20.3	57.7	34.6
(2)	0.0	29.4	55.1	79.7	42.3	65.4
回答数	4	17	49	138	26	234

- (1) 図書館所蔵のもの (2) 外部からの持ち込み

学年が進むにつれて、外部からの持ち込みが増えて行く。(3)のどちらともいえないの項目は5学年に多いが、その中には図書館所蔵のものを利用する場合も含まれるので、上記の傾向は4学年で止まっていることがわかる。

参考のため、過去1年間のビデオテープの利用状況を示した。この中には授業・特活利用も含まれているので、厳密には言えないが、全般的には上記の

昭和62年2月

傾向を裏づけており、特に4学年において顕著である。

23. [21で(1)～(4)の答えをした人に] ビデオ鑑賞室ではどんなプログラムを好んで見ますか。該当するもの3つ以内に○印をつけ、番号で順位をつけて下さい。

- (1) ドラマ (2) ドキュメンタリー
(3) スポーツ (4) 音楽・芸能 (5) 美術・工芸
(6) 科学・技術 (7) 文学 (8) 歴史・紀行
(9) 語学 (0) その他

表5-23-1

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	41.3	33.6	21.6	36.5	30.3	32.9
(2)	18.5	13.8	7.9	7.5	13.0	10.8
(3)	13.0	16.4	12.2	12.5	21.1	14.9
(4)	16.3	18.9	18.0	27.2	14.0	20.6
(5)	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.2
(6)	3.3	9.5	15.8	4.4	8.1	7.6
(7)	0.0	2.6	0.0	0.9	2.2	1.2
(8)	2.2	2.6	2.9	1.6	2.7	2.2
(9)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1
(10)	5.4	2.6	20.2	9.4	8.1	9.5

(1位の数×3, 2位の数×2, 3位の数×1として算出した比率)

表5-23-2 ジャンル別の順位

項目 \ 学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)	①	①	①	①	①	①
(2)	②	⑤	⑥	⑤	④	④
(3)	④	③	⑤	③	②	③
(4)	③	②	③	②	③	②
(5)	⑧	⑨	⑧	⑩	⑩	⑨
(6)	⑥	⑤	④	⑥	⑤	⑥
(7)	⑧	⑥	⑨	⑧	⑧	⑧
(8)	⑦	⑥	⑦	⑦	⑦	⑦
(9)	⑧	⑨	⑨	⑩	⑨	⑩
(10)	⑤	⑥	②	④	⑤	⑤

(1)のドラマは各学年を通じて断然トップである。(10)の他に映画、アニメと記載した者が多いので、それも同じジャンルと考えれば、圧倒的な優位を誇っていると言える。以下、全学的には(4)の音楽・芸能、(3)のスポーツと続くが、それ以下は学年によってかなりのばらつきが見られる。

(5)の美術・工芸、(9)の語学は皆無に近いが、これ

にはソフトの少なさも影響していると思われる。

24. 本校の図書館では、書籍、レコード、ビデオテープに関するアンケート用紙を閲覧室内に用意して、学生の要望を聞き、購入の際の資料にしています。このことを知っていましたか。

(1)知っている (2)知らなかった

表 5—24

項目	学年	1	2	3	4	5	全学年
(1)		25.6	57.6	72.4	81.0	81.5	62.6
(2)		74.4	42.4	27.6	19.0	18.5	37.4
回答数		156	158	156	137	130	737
無答数		6	0	3	2	2	13

当然のことながら、学年が進むにつれて、(1)が増え、(2)は減るが、22と同様に、この傾向は4学年でほぼ止まる。4、5学年の(2)の20%近い数字は限界だったかもしれないが、本調査がそれを破る役目は果たしたことになる。

25. [24で(1)と答えた人に] アンケートに応募したことがありますか。

(1)ある (2)ない

表 5—25—1 本項の回答に対する比率

項目	学年	1	2	3	4	5	全学年	M	E	C	B
(1)		4.8	14.9	23.9	30.6	28.4	23.0	31.1	26.7	23.7	11.1
(2)		95.2	85.1	76.1	69.4	71.6	77.0	68.9	73.3	76.3	88.9
回答数		42	94	113	111	109	467	103	131	118	117

表 5—25—2 本調査の全回答数に対する比率

項目	学年	1	2	3	4	5	全学年	M	E	C	B
(1)		1.3	8.9	17.3	24.8	23.8	14.7	18.0	18.4	15.1	7.1
(2)		98.7	91.1	82.7	75.2	76.2	85.3	82.0	81.6	84.9	92.9
回答数		162	158	159	139	132	750	182	192	191	185

ここでも、22、24と同様に、(1)が増え、(2)が減る傾向が、4学年で止まっている。さらに、学科毎の傾向には、若干の凹凸が見られる。

26. 次の各項目について、意見や要望を自由に書いて下さい。

- (1)購入して欲しい図書等について
- (2)設備・機器等について
- (3)その他(特に項目18に関する要望)

以上については、まとめの中で記述する。

6. まとめ

6.1 調査結果の要約

(1)若者の活字離れの傾向が、本校にも当てはまる。一般的読書傾向としては、項目2および5~7に見られるように、古典的文学作品が敬遠され、軽い読物や漫画が好まれる。

(2)項目10、12に見られるように、図書館利用率のクラスによる差が大きい。

(3)閲覧室の利用が少ない学生は、多忙というよりも、学習や読書への無関心が現われたものと、項目14、15、18から受け取れる。

(4)音楽鑑賞室およびビデオ鑑賞室の利用率は、学年を追って増加するが、4学年で頂点に達し、5学年は横ばいとなる。ビデオソフトについては、学年を追って外部からの持ち込みが増えて行く。

6.2 講じた対策

(1)基本的な全集物はほぼ揃えていたので、出来るだけ学生の要望に答えるよう、項目24記載のアンケートおよび項目26による学生の要望を尊重し、ポピュラーなものを購入するよう配慮している。ただし、一般図書に関しては学生の要望は少なく、また一方においては「固い」読物に学生の目を向けさせることも必要であるので、啓蒙のために、不定期ではあるが、図書館便りを発行している。

(2)項目16に見られるように、帯出証を持っている学生ほど貸し出し冊数も多いので、61年度からは全学生に図書帯出証を持たせている。

(3)項目18から、多く図書を利用するクラスほど閲覧室の開室時間の延長および長期休業中の開室日の設定を望んでいることがわかった。このことと項目26(3)に示された学生の希望を考慮して、61年1月から次のような処置を暫定的にとっている。

- a)土曜日の開室時間を午後2時まで延長する。
- b)夏期休業の最初の一週間は通常通り開室する。長期休業中の他の期間でも、職員の通常の勤務時間中は、業務にさしつかえない限り、入室者があれば、利用させる。

参考のため、下記に土曜日午後1時~2時の利用状況を示す。

期 間	回 数	延べ人数	平均利用人数
4/26~9/27	15回	216名	14名

(4)音楽鑑賞室およびビデオ鑑賞室については、項目26に示された学生の要望を考慮し、次の処置をとった。

秋田高専における図書館利用に関する調査

c)CD (=コンパクトディスク)の導入(61年8月)

b)ビデオシステムのステレオ・ハイファイ化(60年8月)

c)ビデオソフトに、ドラマ・映画やポピュラー音楽(特にライブ物)など、学生の要望の強いものを入れる。(60年8月~)

以下に、59年度と60年度の9月~3月の利用状況について、同一集団の逐年比較をする。

表6-1 音楽鑑賞室

学 年		1年	2年	3年	4年	5年	1~4年
59年度	延べ人数	71	30	226	97	79	424
	1人平均利用回数	0.4	0.2	1.5	0.7	0.6	0.7
	在学生籍数	166	169	154	144	126	633
	特活利用回数	3	0	0			3
60年度	延べ人数	67	53	101	69	70	293
	1人平均利用回数	0.4	0.3	0.6	0.4	0.5	0.5
	在学生籍数	163	163	169	163	132	627
	特活利用回数	3	0	0			0
学 年		1年	2年	3年	4年	5年	2~5年

表6-2 ビデオ鑑賞室

学 年		1年	2年	3年	4年	5年	1~4年
59年度	延べ人数	18	93	312	49	108	472
	1人平均利用回数	0.1	0.6	2.0	0.3	0.9	0.7
	在学生籍数	166	169	154	144	126	633
	特活・授業利用回数	6	10	3	5	3	24
60年度	延べ人数	117	168	239	106	193	706
	1人平均利用回数	0.7	0.4	1.4	0.7	1.5	1.1
	在学生籍数	163	163	169	163	132	627
	特活・授業利用回数	2	3	4	0	0	7
学 年		1年	2年	3年	4年	5年	2~5年

ビデオ鑑賞室の場合、60年8月にとったb)、c)の処置の影響が現われて、一般的に利用率が向上しているのがわかる。現4学年だけは下がっているが、調査以前の高利用率が持ちこみソフトに支えられていたため、c)の処置が直ちに影響しなかったものと思われる。

音楽鑑賞室については、60年度には新対策は講じておらず、しかもb)、c)の影響もあってか、利用率はむしろ下がったといえる。a)の処置の影響が

どう現われるかは今後の調査に待たれる。なお、CDプレーヤーの設置と同時に、ソフトとして、資料性を考慮して、クラシックの作品を揃えた。

6.3 課題と展望

(1)学生の啓蒙を図るために、現在発行している図書館便りを定期的なものにして、内容の充実を図り、さらに学生の読書意欲を喚起するため、読書感想文コンクールの実施も考えたい。

(2)(1)のプランを効果あるものにするためには、教官側の指導体制も強化する必要がある。また、各教科・ホームルームでの図書館の積極的活用のために、たとえば指定図書を揃えるなどの方策も考慮すべきだろう。

(3)閲覧室の開室時間の延長については、現在の暫定的措置でしばらく様子を見た後、必要があればさらに根本的な方策を考えたい。それには当然スタッフの勤務形態の問題が伴うので、しかるべき考慮が必要となる。

(4)視聴覚関係については、最近設置したCD用のソフトの充実を図り、音楽担当講師の協力を仰いで、学生の好むポピュラーのジャンルだけでなく、クラシックにも目を向けるよう啓蒙したい。ビデオソフトについては、学生の要望も尊重しつつ、娯楽用と学習・教養用とのバランスをとって選定していきたい。また、閲覧室には60年度からテレビビデオ(=テレビとビデオレコーダーを一体化したもの)が設置されているが、それと共に、以前からの懸案事項であったカセットプレーヤーを近く用意してヒアリングコーナーを設けテープの館内貸し出しを行う。将来は、閲覧室とは別に個別学習用視聴覚室を設ける予定で要求中である。

(5)さらに長期的な展望として、図書館全体の機能配置の見直しを図る必要があろう。その一環として、閲覧室内の狭隘を解消するための移動書架の導入を計画している。また、自習室や、主として授業に使われる施設——視聴覚教室など——は、組織上の問題も含めて、図書館とは切り離して設置することも必要になると思われる。

本調査は、本校図書館の活用のための重要な資料として役立てられたが、今後さらに必要に応じて、内容を改めつつ追調査したい。

最後に、調査の集計と補助資料の提供に御協力を頂いた庶務課図書係員の椎名律子・樋渡禎正両事務官、および図書館運営の改善に御支援下さった図書館運営委員各位に深く謝意を表する。

7. 参考文献

1. 田 健一, 進藤俊一, 高専図書館利用上の諸問題 秋田高専研究紀要, 第11号, P128~134, 1976
2. 吉川隆美, 高専図書館の回顧と展望 高専教育, 第3号, P153~160, 1980
3. 佐藤 孝, 播磨谷一雄, 年代正孝, 幸野 稔, 秋田高専における学生の英語学習に対する意識と実態 高専教育, 第7号, P20~31, 1984
4. 田 健一, 清水正夫, 中山信一, 葉柳 正, 高専図書館の利用状況に関する調査報告 長岡高専研究紀要, 第11巻, P49~86, 1975
5. 菊地光一, 本校学生の読書活動について 高専教育, 第3号, P98~111, 1980